



長崎港入船月一



服部文庫
117
1553
1



中一阿蘭陀人忍び主人を殺す事

中二阿蘭陀人平元の高貴事

中三阿蘭陀人御意前中上事

中四阿蘭陀人新南蠻海客事

中五忍び主人を殺す事

中六長崎に忍び主人を殺す事

中七和島築之関事

附一日所出来浪人

中八和島築之関事

力九 水鴻門書初之事

力十 阿蘭陀船番取之事

力十一 阿蘭陀商賣之事

力十二 同金和之事

力十三 和鴻乙各兵通初目附之事

力十四 和鴻口派浪越之事

力十五 阿蘭陀外通初之事

力十六 口派浪兵同金支死之事

力十七 抄取沒之事

力十八 金場所修役之事

力十九 系刺并初之事

力廿 刺并破之事

力廿一 二夜刺并所殺死之事

力廿二 刺并系宿老之事

河津書

但折

形、京坂商人、しき、作、ま、り、り、
お、新、八、市、高、貴、文、致、り、能、を、ん、と

急、入、阿、國、陀、形、平、戸、市、の、ろ、か、び、ん
八、市、高、貴、文、致、り、能、を、ん、と
し、法、を、ろ、か、び、ん、可、作、り、思、地、を、り、

と、井、大、炊、助
安、友、野、馬、也
林、舎、伊、賀、也
本、五、上、野、也

八月廿二

相浦能前

石、同、前、急、け、ま、ま、也、
平、戸、高、貴、文、致、り、能、を、ん、と
一、屋、人、也、は、文、江、戸、の、教、年、通、り、は、阿、國、下、渡、り、ま、り、
長、崎、一、唐、和、遠、り、形、を、り、又、日、本、を、り、
多、物、を、り、形、を、り、
一、阿、國、陀、形、を、り、
乙、子、子、三、拾、二、也、
被、道、留、り、
自、由、形、也、
見、り、

く書簡類通隔、並に狀年、居るも書通隔
 來助右と云者南蠻文字、得るべく、
 今も付天連、も方、見、隔、並に切支丹字、
 中、並に切支丹字、
 下、並に目、勢、と、
 今、火、
 今、
 今、

阿蘭陀船南歸海島事

一寛永女末年阿蘭陀より艘南部より原島より
 小舟拾ふに船陸より上りて船中より
 阿蘭陀より入るに船中より

彼者亦不通、ふく松浦を役守に、你月年々、
通河志、孫貴、中若と、又、孫貴、
封、阿蘭院、之、
少月、南部、
分、通河、
海、
阿蘭院、
放、
長、
付、
以、

一當子異國，好與易。浦上就士，已於南郭浦。
以相及，若阿蘭陀。丹遭風波，難渡海。上中，也依。

中別石高難通遠方整事海中分亡紛依古岸
如ぞんといふ所詮海に彼形形雅地刺さる
あうらうとあふれ傳天連并切又丹室つて夜不采
来に能堪中分うさふ五分来自ら遭難月日
中月何の浦おるやうもや動き揚陸地を
岸獲人の中船中人数も改さる中へ
入る返る海を向はる山月浦阿蘭陀おる
岸へ改さる形番考と分並れ具ふに
近々上意不中及ぶに阿蘭陀使は伐
日今令渡海高貴は事いふ守ちて越さる
中意格捕又ハ并擲ちる波に下入る意

阿部豊後守

杉平保良守

十二月

急げ是に人車戸の渡海事

一、急ぎ長久手阿葉院二、急げ是に人車戸の渡海事
お渡り阿葉院五人やん口前急ぎ長久手日本
渡海は教免の所来り渡下り依り急ぎ十七
も一、急ぎ長久手余渡海し渡り高貴次
中利潤を故来渡海はししししししししし
七急ぎ渡海ししし

急げ是に人車戸の渡海事

一寛文元 庚戌年正月廿二日野

津場へ参入

番町ありんが船一艘見たりしを河國船孫が
ありてを修めりんがしに檢使通河指津新
合を市阿蘭院よりそと忍びし人船や忍び
し人船渡海相止りしを河國にてお流し
珍儀よりいれし人船高き平戸船年お
渡りし中級仕人來日し渡海
し教免を渡りし許忍びし人船と船
艘より言ふに河國より船仕りし人船
ありし船より船を東に去りし二艘船
去りし月より初めし順風高き河國に

を船へ荷物し船積り船より人
是より船へ入津し仕人船中より家
舟味よりある人船より船へ船
近年南風必なりし船娘と忍びし人
方、嫁入りし船中よりある人船より
丹六格別より阿蘭院より船より船
より船より船より船より船より船
より船より船より船より船より船
より船より船より船より船より船

忍びし人船
と儀免を渡りし許忍びし人船

船中、金も病も、流し強う八拾八
金も持渡り

急げまゝ船

長さ拾九間
横之間口八寸
深サ二間
幅三寸サ二間

玉葉武道具

銃炮 八拾二挺
銃 三拾九挺
銃 貳拾六
石火矢薬之拾五桶

同玉 六百八拾四
小玉 又桶

石火矢、月取揚げ、石火矢、数
拾挺、船中

急げまゝの船中

せいもんてん

船人数八拾六人

一急げまゝの船 河津津、一急持渡事、中級、中級、日、流、流、教、候、月、長、初、相、令、按、之、流

古朱原之志母之原之持渡に日本文字
物之けしきと朱原之持子分知方と云

方鴻築立園基事

附
以布家賃取事

一寛永十三年壬午行柿系苑評守馬場之在也
支那之帝も夢之町に継體停止し作り添ひ
鴻と築き可押ひに之俄に築造と申すに
手前直町に大玉五ヶ所指し之を築家藏と
建も夢之町に宿所ありて中分たりと
表裏に門云候り作事子丑寅午未申酉
と云ふも

臺人、高麗所入、南臺人、北對之、宿望と
近地、高麗、仁王、永年、為上度、本田
傳、高麗、下、南臺人、日本渡海、中停止
水卯辰、西、初遇明地、光元、丁巳、年、壬子、行、了
場、之、在、此、極、極、平、在、支、配、之、市、阿、蒙、陀、人、年
元、不、出、移、也

[illegible]

馬場寺在馬植植年七歲時父少時以八
阿婆陀形多入佛門以一千五百餘年
目為名僧之子在相極每有方之者
所入家之表同數判既分

不遇同數年家數之事
附口布地之事

一豎

百拾八間或尺七寸

一橫

三拾五間或尺八寸

坪數二千九百貳拾四坪五分

軒數四拾

不遇乙名并町八或拾四尺長

軒數拾九

不遇之町八或拾四尺長

軒數貳

編荷花

六拾五軒

一不遇地之根之苗二百拾五尺長

一不遇地之根之苗二百拾五尺長

南百拾八間或尺七寸
北九拾六間或尺七寸
東三拾八間或尺七寸
西三拾八間或尺七寸

拾二間 公儀門塙

西方荷役場壕内示

惣拾五間
横六間

本場作事ノ度

一 惣壕門橋及大破り處宝六年年半迄忠左衛門
園野孫九郎支死し市本場乙名方不竊門作
橋ハ前簾ハ板橋ニシテ折レ修復出来し石橋
成ル惣壕門前ヲ裁断ス

一 石門内本場通河内國為前々ノ一軒建本場
乙名方 英火消道具並石見又石見本
方今市法ニ添付スル作事ニ至ル

一 貞享二年惣壕及大破り處市奉行官帳監照
川口源左衛門支死し市本場乙名方不竊門作

一 荷役場、檢便居而阿蘭陀官不仕事仕来ル
阿蘭陀改檢便場と被書方不仕事仕来ル相
成候中元禄七年本場所中不仕事仕来ル
市奉行官帳監照并教免主所ノ不仕事

一 後荷役場並市奉行官帳監照入在數年
ケル後折断中ノ不仕事仕来ル元禄九年市奉行
官帳監照并市奉行官帳監照并市奉行官帳監照
後荷役場之間ハ二軒建スル並市奉行官帳監照
不仕事仕来ル市奉行官帳監照并市奉行官帳監照

帝子文姬、帝唐之書、沙格、人來、月、水、人、
宛、如、鴻、青、人、如、相、勢

一、如鳴門、所著古今長河門、所著阿婆羅心、
在津、月一町、廿一日、一、米、著、勤、心、不、得、余、大、板、
、與、心、不、得、判、府、系、於、著、心、不、得、

一、因布衣人者皆中及下等者以之爲湯水
入口後或高一日雇以之爲穴及通中人

行半の君在り支配し帝歩行と臨み取審り共於
士人加け考と出都取審り共々方々より
多行川日御在り大坂在り共々取し帝同々
止り渡り候

阿耨陀高亭寺

一阿闍院平戸公為揚子城日本河海任水師
之々々於禮年卯七八艘五十六艘宛無取之
于方其自今又至八九番其自祀家之并取之
德悟相封之而高遠之實之永十八年分實
文十七年之廿六七年之々々白那之而高遠

陀人が、（一）先年、（二）高僧、（三）法門、（四）久々、（五）未
行、（六）市、（七）判、（八）安、（九）智、（一〇）化、（一一）志、（一二）新、（一三）と、（一四）か、（一五）毎、（一六）智、（一七）を、（一八）毎、（一九）分
二、（二〇）指、（二一）八、（二二）也、（二三）相、（二四）極、（二五）陀、（二六）相、（二七）阿、（二八）は、（二九）是、（三〇）准、（三一）常、（三二）と、（三三）不
二、（三四）路、（三五）八、（三六）と、（三七）高、（三八）夢、（三九）可、（四〇）信、（四一）た、（四二）と、（四三）阿、（四四）業、（四五）陀、（四六）人、（四七）
二、（四八）金、（四九）子、（五〇）高、（五一）夢、（五二）可、（五三）相、（五四）極、（五五）人、（五六）と、（五七）阿、（五八）業、（五九）陀、（六〇）人、（六一）
二、（六二）夢、（六三）之、（六四）阿、（六五）人、（六六）中、（六七）阿、（六八）業、（六九）陀、（七〇）人、（七一）之、（七二）異、（七三）法、（七四）陀、（七五）人、（七六）之、（七七）異、（七八）
市、（七九）法、（八〇）十、（八一）二、（八二）年、（八三）と、（八四）阿、（八五）金、（八六）毎、（八七）と、（八八）大、（八九）板、（九〇）上、（九一）阿、（九二）法、（九三）陀、（九四）
二、（九五）法、（九六）陀、（九七）人、（九八）阿、（九九）金、（一〇〇）凡、（一〇一）と、（一〇二）大、（一〇三）
記、（一〇四）ス

一 間金凡拾萬七百八拾兩余
石考實文十二子年八分古子元二年五子文

細大皆上細也

市鴻口疾邪無物邪事

[illegible]

世代邦を其目より其目なり之を年元
言ひ之於其目余れ高木作馬也番
町手勢を合内院之刻月か鴻役人其阿
華院内通河より其高木法役人役神也
相親不其高木中助成成是之相親高
嘉平其高木人礼報元例志元其相親

か鴻乙名并通河月分事

一 か鴻開基時より乙名役より其高木より
其役より相親より其高木より其役より
其役より其役より其役より其役より

遠江守文記より其高木より相役より其役
より其役より其役より其役より其役より

一 阿葉院通河より其役より其役より其役
元録八書年より其役より其役より其役
其役より其役より其役より其役より其役より

阿葉院外通河初より其役

一 首より其役より其役より其役より其役
院高木より其役より其役より其役より其役
其役より其役より其役より其役より其役より

自所傳先王之事以不傳法之者一依
實咏十成年川那格支死之年阿蒙院
口那格知也の言六人言不許仁と云人言
阿蒙院の死に多分相格下付不格出人
探知小數と定知格乙名無詞名事と云
阿蒙院人言右月入留了と事以無詞乙名
竊て格實文十子年市法高臺成内無詞
只法那九と事行年乙名事知許し五ヶ所
保多利那月不之格其月先年頃乙名事
二年市法格乙名格其月乙名事以無詞
恒也難に月阿蒙院事あるに許し云ある
にけり此と九し外に格乙名事其月乙名事

年頃

口張根其阿根支死後之事

一 阿蒙院口張根其阿根支死後二年市行川
口張根其阿根支死後二年市行司
相格其月不町乙名口張根其阿根支死後
不町乙名其阿根支死後乙名事以無詞
藏す入年乙名其阿根支死後乙名事以無詞
其阿根支死後乙名其阿根支死後乙名事以無詞

城口役之事

一 乙名事二年市行川口張根其阿根支死後二年市行

分限十萬、可買九、凡此作爲係、要與或
近中、商人長濟、至令共大、子限、應
刻、江、江、買、九、思、四、人、商、賣、一、令、保、所、能
申、展、又、自、本、大、下、持、所、利、之、而、之、一、本、買、
九、高、人、大、本、商、賣、中、之、子、之、子、之、子、之、子、
買、人、之、本、所、以、之、九、去、年、一、本、本、所、以、之、
今、之、大、下、持、之、子、之、子、之、子、之、子、之、
以、意、思、一、之、不、付、之、持、所、之、本、本、所、以、之、
相、別、之、本、買、九、思、四、人、商、賣、一、令、保、所、能
列、建、一、上、國、大、下、持、之、子、之、子、之、子、之、
仲、之、買、九、刻、所、可、令、中、之、子、之、子、之、

長九甲辰年

割算割算

白系

百九系

同

百九系

同

百九系

同

百九系

或系

百九系

八九

百九系

八九

百九系

八九
八九
八九

系屋正書
二湯屋祿德
上柳大書

同年

河上町

果如若居時定主手書
系之進之
長崎下馬入
了

寛永九年

松倉守判

一寛永九年

台徳院様河代
判并年成山教免

白糸

五拾九

同

二拾九 大坂

今年白糸僅持
白糸も
之白糸一色

一寬永十八己年 大猷院様所代官大坂
 所代官十一年加増
 以少拾九増

百或拾九	百丸	百丸	百丸	百或拾九
六拾九	五拾九	六拾九	六拾九	六拾九
只拾九	只拾九	只拾九	只拾九	只拾九

拾或丸 拾或丸 拾或丸 拾或丸 拾或丸
 五丸 五丸 五丸 五丸 五丸
 貳丸半 貳丸半 貳丸半 貳丸半 貳丸半
 小拾九 小拾九 小拾九 小拾九 小拾九

拾丸 拾丸 拾丸 拾丸 拾丸
 平戸 平戸 平戸 平戸 平戸
 石長清寺行多坊之下在支院寺上使
 井之能寺寛永十八己年七月より
 所代官十一年加増
 以少拾九増

之格を九十九大坂上宅に相強く系に長崎に各紙
 并地下諸中商人に引合、毎元出戻り
 洋銀は作付は非は中以上は取次りて來、
 子如大に利潤主に計利潤下考も洋銀
 市銀大坂上の計年不利并移主唐人阿葉
 陀本乙、人分、相新、高き

二秀判并少教文之

一割并破二十年金中終一私負事二五年

江作舟、船、長、舟、上、阿、葉、陀、葉、系、長、舟、中、
 下、江、作、舟、也、系、下、江、長、舟、下、系、舟、五、子、不、
 江、作、舟、也、系、白、系、舟、系、下、系、舟、系、舟、
 阿、葉、陀、方、眼、系、系、一、系、系、舟、江、作、舟、系、舟、
 川、日、系、舟、系、舟、系、舟、系、舟、系、舟、系、舟、

長壽寺唐永門書院高書了便先
經了各名刻首伏于中諸也相
封高書了了了了了了了了了
向後書書了了了了了了了了
丹常門了了了了了了了了了

子
十二月

刺并系宿志

一 此經刺并時長濟刺并中問今人刺并其
高入月何若之可也若其高者年以之序
後復之也若其高者年以之序
刺并之也若其高者年以之序
市注并長濟時即之也若其高者年以之序
之也若其高者年以之序
若其高者年以之序
大經之大也

